

## わが国における原油価格のガソリン価格への転嫁構造

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹

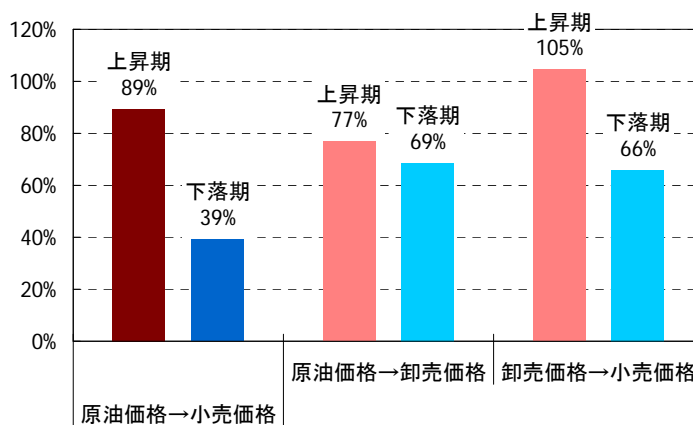
柳澤 明

### 要旨

ガソリンは、例えば自家用車への依存が大きい地方部で必需品となっていることなどから、その価格動向への関心が高い。現在わが国では、石油元売各社が特約店にガソリンを卸す際の卸売価格(仕切価格)には、市場連動方式が適用されている。先物価格やスポット価格などの国内市場価格を参照して卸売価格を改定することで、透明性の確保などが図られている。

しかし、市場連動方式で参照する国内市場価格は、ガソリン需給の状況とともに原油価格の影響も受けている。結果として、同方式導入後もガソリン小売価格は原油価格と強い関係がある。本論文では、根源的な外部要因である原油価格がガソリン小売価格へどう転嫁(Pass-through)されているのか、定量的な分析を行った。

原油価格のガソリン小売価格への転嫁の構図



原油価格の小売価格への転嫁率は、上昇期において89%、下落期はその半分以下の39%と非対称である。ガソリン事業の厳しさから原油価格上昇分以上に小売価格が上昇することはないが、原油価格の下落分は圧縮して反映される。原油コストのウェイトを勘案すると、上昇期と下落期の転嫁率の差は小さくはない。低い転嫁率と非対称性は、原油価格の卸売価格への転嫁と卸売価格の小売価格への転嫁の両方に由来している。非対称性は、元売、流通の厳しい経営基盤の改善に寄与している。逆に、収益確保への努力が非対称性となって表れているとも解釈できる。

転嫁の地域差は、卸売価格の小売価格への転嫁率の違いに起因している。高値地域とガソリンスタンド過疎地域では転嫁率が低く、特に価格の下方硬直性が観測される。これに対し、安値地域は卸売価格の変化を相対的によく反映している。そのため、原油価格の下落期には、小売価格の地域差が拡大する傾向がある。

キーワード: ガソリン価格、原油価格、転嫁、Pass-through

お問い合わせ: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)